

第7回『総合学習』講座に参加して

3班 若月 恵子記

鍬柄岳、荒船山 (一泊二日)

12/5 (土) : 快晴

冠雪した浅間山をみながら、車中にて講義(天気)や鍬柄岳でのロープワークの説明を受ける。9:53、登山開始、3班は先に山頂を目指す。鎖場が多く、カラビナを使って慎重に登る。途中の紅葉、青空と白い雲、里山の風景は素晴らしい。山頂に近づくにつれ、急登になり足場も狭く風も強くなって更に注意深く登る。11:07に山頂到着。眺望も良く、荒船山、八ヶ岳も望めた。11:55、昼食、その後、ロープワーク。今回は今までよりも高さ、斜度、距離もあり緊張を強いられました。下降器具を初めて使用しましたが、慣れたら大変便利かな?という印象でした。16:10宿にて講義、委員の方々の雪山の道具の説明や、次回、土合の山の家での雪山入門の説明、プロジェクター等、カルタスホールと同じ機材を使つての説明には驚きました。運搬の苦勞が想像でき、感謝の気持ちでいっぱいになりました。

12/6 (日) : 快晴

7:00、朝食後、7:50出発、9:10、準備体操後、内山大橋をスタート。しばらく舗装道路を歩く。9:18、登山口スタート、荒船不動尊で最終調整。コンパスを振って沢沿いを50分程歩き星尾峠に到着。いよいよ今回の最高地点1422Mの経塚山。冷え込んだのか山頂付近の木々に霧氷の花が咲いていた。イルミネーションのようにキレイでした。空身でアイゼンだけ持って登り、下りはアイゼンを装着して降りた。爪がしっかりと氷をとらえて、滑ることなく降りることができた。荒船山の中間地点付近で昼食(20分)、荒船山の山頂はただただ広いだけで山頂らしくなかった。何か物足りなさを感じたのは私だけでしょうか?しかしブナ林は春の新緑を目に描けるほど見事でした。鱸岩では事故があった所なので、気を付けて景色を眺めた。お天気も良く、委員の方による同定で、八ヶ岳、北アルプスの槍ヶ岳等を確認できた。アップダウンが続き、班長から、PM2時頃が事故の起こりやすい時間帯との注意があり、肝に銘じて歩く。鱸岩は下から見上げると迫力があり圧倒された。14:20 無事下山。委員の方々のロープ張り、鍬柄岳の岩場では要所、要所で見守っていただき、安心して登る事が出来ました。2座はまったく様相が異なり、変化に富んだとても面白い山旅でした。皆様お疲れ様でした。そして、ありがとうございました。

第20期 第7回



『総合学習』講座に参加して 20期登山学校 伊藤 聡 記

1. 「第1日目」①日時：12月5日（土）②場所：楡柄岳下～楡柄岳山頂
③班メンバー：若林班長、市原副班長、山野井氏（会計）、坂田氏、工藤氏、伊藤（記録）
④担当運営委員：伊藤委員、榎本委員、水谷委員⑤コースタイム：下平出発（9:15）・登山口（9:50）
－懸垂下降練習場着（10:20）－ATC 他練習（11:00～）－楡柄岳登頂（12:00）－昼食（13:10）－下山
（13:30）－登山口着（14:00）⑥バス車内での講義（前回の講座での質問等） ・月が赤く見えるのは、
天気の影響があるか水蒸気、ホコリの影響で、天気には影響ない。 ・山で地震にあったときの
対処落盤が怖いので、最寄の山小屋に避難する。 ・雷 ラジオ（AM）に雑音が入り、予想が可能。
⑦宿舎での講義 ・次回講座「雪山入門」について・雪山を楽しむ、雪山の装備、雪山入門講座の
スケジュール説明他 ・雪山の装備で、軽アイゼンを購入する場合、バンド式でなくワンタッチ式が
かじかんだ手でも装着できるので、よいとのこと。また、ウェアについては、アウターは雪山入門講
座の場合、レインウェアで代用も可とのこと。スパッツは靴への雪の侵入防止に必要とのこと、
雪山用でなくても可とのことであった。⑧実技内容楡柄岳登山口での懸垂下降では、今回初めて ATC
という器具を使って懸垂下降の練習とムンターヒッチでの下降の練習をした。ムンターヒッチもや
っていないとすぐ忘れるようで、降下訓練を行った初めの方の班に、ムンターヒッチに時間がかか
っている人が多かった。また、ATC を使うと、ムンターヒッチよりロープに負担がかからないとい
うことであった。 懸垂下降の練習後、狭い登山道と鎖場を登って、楡
柄岳に着いた。頂上は風が強かったが、巻雲と積雲が少しあるくらい
ですっきり晴れ渡り、遠くに明日登る荒船山を見ることができた。頂
上は立っている場所も狭く我々登山学校の他のパーティーもたくさん
登ってくるため、早々に下山した。昼食後、すぐ下山し、宿舎で次回講
座「雪山入門講座」があった。



2. 「第2日目」①日時：12月6日（日）②場所：荒船山③班メンバー：若林班長、市原副班長、
山野井氏（会計）、坂田氏、工藤氏、伊藤（記録）④担当運営委員：伊藤委員、榎本委員、水谷委員⑤
コースタイム：宿舎出発（7:50）－内山大橋（8:50）－登山口着（9:05）－不動尊着（9:55）－星尾
峠（10:42）－経塚山入口（11:00）－経塚山（11:15）－荒船山着、昼食（12:00）－荒船山出発（12:20）
－壱岩（12:40）－ローソク岩（13:20）－内山峠（15:00）⑥実技内容 出発前は少し肌寒い感じであ
ったが、巻雲と積雲が少しあるくらいで晴れたいい天気であった。ストレッチを終え、登山を開始
し、登山道にはいると霜柱が立っていて、麓より寒くなっているのがわかった。登り始めてしばら
くすると、汗ばんできたので休憩時、1枚脱いで体温調節したが、冬の山では、汗をかくと休憩時に
体温が下がるため、体温の調節が非常に重要だと感じた。 麓から経塚山を見ると霧氷のため、木々
が白く見えていた。登山道もアイスバーンのところがあり、登山靴では登るのに苦労したが、運営
委員さんが張ってくれたロープのおかげで、何とか登頂できた。アイゼンをザックの中に入れてま
ま置いてきてしまったことを、後悔したが後の祭りであった。 昼食後、壱岩に向かう。荒船山頂上
の登山道は、地図とは違い、最高点から東側にあり、今回も地図と実際の道が相違していることが
発見できた。荒船山は、岩山のため、下山中も何箇所かに鎖場があり、重いザックを背負いバランス
をとりながらの初めての下山であったが、何とか無事下りてこられた。以上

思えば遠くへ来たもんだ、いえいえ、まだ、道の途中。

大宮勤労者山岳会 植村 勇 記

1日目、バスの中で楽しい会話が続き、渋滞もなく車中はとても短い時間でした。千平駅の側にはコスモスの花は無く（何故、コスモスなのか？「思えば～」の歌詞に出てくるのです）、民家の軒先に干し柿や大根が吊るされていました。のどかな時間の流れです。講師の先生方や受講生の方達の馴染みの姿が安心感とのどかさを増していました。「何故、自分は山に登るのか？」一緒に登る人達と話をすることが楽しく、「まだ、歩けるぞ、今、ここを歩いているぞ。」と自分で確かめたい。そして、問いかける自分と話がしたくて来るのかなと思っています。子供の頃から冒険に憧れ、空想だけは広がっていました。26年前に職場の同僚の紹介で山岳会に入りましたが、他のことに興味に移り、1年ほどで辞めたのだと思います。あまり、はっきり覚えていないのです。思い悩むことがあり、去年の8月に同じ山岳会に入りました。26年前と一緒に山に登った方のお一人が2年前



に亡くなったこと、今の会の様子を聞く中で、経過した時間の長さを改めて感じました。登山学校に入って感じることは、講師の先生方の登山学校に対する思いは、山や自然、人を愛し、安全な登山を目指す仲間を一人でも多く育てたい、ということなのかと思いました。違っていたらごめんなさい。山行の度に大変お世話になりました。有難うございます。今回の「総合学習」で学んだことを、自分の身体の「引き出し」からいつでも出せるように学習と経験を重ねることが必要なのだと思いました。

過去の事故の事例に学ぶことや他の人に連れて行ってもらう山行からその時々で判断ができる力を少しでも身に付けられるようになりたいと思います。私にとって山は趣味です。でも、時には生命が掛かってしまうほどの危険性を持つ、趣味だと思っています。自分の山岳会の方で今年78歳になる男性の方を含めた方達と時々山行を御一緒しています。その方が現役の頃、職場の労働組合の委員長、書記長を続け、職場環境、待遇改善に取り組み続けていました。その間も山登りを続けていて、関東の山はほぼ登り、個人で登ることに限界を感じて50代で山岳会に入ったそうです。その方が今年の5月に心臓の手術をして3カ月過ぎた頃からリハビリ登山をして、先月、大菩薩嶺に御一緒してきました。登りの呼吸は荒くしんどうそうに見えるのですが、お話する時はそんな素振りは見せません。山が本当に好きなんだと思います。尊敬する先輩のお一人です。鍬柄岳の岩場や荒船山に行くことができたのは、個人力だけではなく、サポートして頂いた講師の方や受講生みんながいるからこそだと思います。また一つ「プチ自信カード」が増えました。有難うございました。

登山学校で知りあうことができた方達と機会あるごとに素敵な山行が今後も出来たら素晴らしいなと思っています。

